



# 身近な平和スポット!!



- ① 壁に残る大きな弾痕は、当時の機銃掃射の激しさを物語っている。
- ② 十三公園内にボツンと残るサルサルの像。戦後の復興とまちの繁栄を見守ってきた。
- ③ 十三公園内には空襲の難を逃れた木が3本だけ残っている。

## 戦争の記憶を今に伝える語り部

府立北野高等学校の敷地の西側に一部分だけ現れるレンガ造りの壁。旧校舎の一部が残された壁には直径約30cmもある弾痕が28個。これは太平洋戦争における米軍の空襲による銃弾の爪痕。旧制北野中学校では、昭和20年6月15日の空襲の際、学校防衛中の生徒2名が亡くなるなど、米軍の空襲により9名の生徒の尊い生命が奪われた。終戦を迎え、この壁を「戦争の生き証人」として保存することが、教諭や同窓生たちの声によって決まり、現在も大切に引き継がれている。

北野高校の北側に位置する十三公園。子ども達の笑い声が響くこの場所も戦争によって大きく傷ついた。3面に登場する金津

博直ひろなおさんは「当時ここは森のように木が多くあった。空襲でそれが消えた。辺りには焼夷弾いだんが転がっていて、サルサルの像だけがボツンと残る寂しい光景だった。」と当時を振り返る。そのサルサルの像は今も公園に残り、そこに集う人々を静かに見つめている。さらに、公園内には空襲で全焼した中津第三尋常小学校中津第三尋常小学校(成小路国民学校)の碑つづもあり、母校をしのぶ同窓生たちの想いが綴られている。

終戦から70年余りの年月が過ぎ、淀川区の街には再び活気があふれ、戦争を知らない世代が増えてきた。身近にある戦争の記憶を伝える語り部たちの存在を知り、戦争の悲惨さや平和の尊さを再確認してみたいかがでしょうか。



▲十三公園内にある中津第三尋常小学校の記念碑

## 北野高等学校と十三公園

住所: 新北野2-5-13、十三元今里1-1

北野高等学校は新北野2丁目にある大阪府立高等学校。卒業生には漫画家の手塚治虫先生がおられ、彼の作品内でも戦争によって傷ついた大阪をはじめとする関西の街並みが何度も登場する。十三公園は野球場を備えている淀川区で最大規模の公園であり、花や木々にあふれ人々の憩いの場として親しまれている。



※「旧制北野中学校本館西壁」は、北野高等学校の敷地内からは見学できません。北野高等学校西側と新北野中学校東側の道路からご覧いただけます。